

No.	A02
タイトル	江戸前・ウナギ保護再生デザイン
所属・名前	鹿島建設株式会社 柵瀬 信夫
キーワード	① ウナギ保護再生 ② 新材料蛇カゴ ③ 皆ですぐできる関係者参加型
<p>かつて東京湾とそれに接続する運河・河川は、ウナギの大漁場となって江戸前ウナギを支えてきました。しかし、都市開発に伴う埋め立てや護岸整備、河川や水路等のコンクリート化など、さらには生き物への配慮不足が、ウナギやウナギの餌料となる生き物の消失を促進した。そのためウナギ資源の減少を引き起こし、それが全国に及び絶滅危惧種に選定される状況が生じた。</p> <p>現在、この危機的状況を急いで改変する研究や技術開発が必要となっています。加えてウナギが親になるためには 5 年以上が必要で緊急性も求められています。</p> <p>そこで簡単で低価格でみんなですぐできる新しいウナギの保護再生デザインを行い、実用化した。このデザインの特徴は最新の蛇カゴを活用するもので、</p> <p>デザインー1 シラスウナギから親ウナギまでの全ての成長段階のウナギとウナギの餌料となる生き物の棲み処を提供する「石倉カゴ」</p> <p>デザインー2 コンクリート三面張水路の床に蛇カゴを設置し棲み処とする「ドジョウ蛇カゴ」</p> <p>デザインー3 ウナギやウナギに係る生き物の遡上障害となる河川横断構造物へのウナギ石倉魚道と、組立式蛇カゴ魚道等、都市化によって消失した生物多様性の継続修復に役立つ。</p>	